

「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」
の検討について

平成30年12月3日
経 済 産 業 省

1. 検討の趣旨

- ・ 浜通り地域等の産業復興・再生に向けて、これまで被災事業者・農業者に対する再開支援や福島イノベーション・コースト構想に基づく拠点整備や企業誘致などを進めてきたところ。
- ・ 他方、本地域において自立的・持続的な産業発展を実現するためには、復興・創生期間後も見据えた中長期的な対応が必要。
- ・ そのため、福島イノベーション・コースト構想のさらなる深化を中心に、県内全域との連携を含めて、中長期的に地域主体で自律的な経済圏（エコシステム）を構築するため、国・福島県・市町村や関係機関が一体となって取り組むべき方向性を示していく。

2. 今後のスケジュール（想定）

- ・ 12月3日 福島イノベーション・コースト構想推進分科会
（趣旨及び骨格案に関する議論）
- ・ 12月～来年2月 骨子策定・関係者との協議
- ・ 来年3月頃 福島復興再生協議会（骨子提示）
- ・ 来年春頃～ 本文策定・関係者との協議
福島イノベーション・コースト構想推進分科会
（策定に向けた議論）
福島復興再生協議会（青写真の策定）

3. これまでの経緯

<平成 30 年 2 月 18 日 福島復興再生協議会>

- ・【内堀知事】今後も引き続き復興を進めて行くためには、国、県、市町村を始め、それぞれの主体が復興・創生期間後も切れ目無く安心感を持って復興に専念できるよう、財源も含めた道筋を共有することが重要であります。
国・市町村と一体となって、復興のビジョン・構想を描いてまいりたいと考えておりますので、国には一緒になって汗をかいていただくようお願いいたします。

<平成 30 年 7 月 27 日 第 7 次与党提言>

- ・東京電力福島第二原子力発電所の廃炉を契機に、原発に依存しない持続的な発展や復興を目指して、国、県、市町村が一体となって、中長期的な視点で広域的な地域再生や産業発展に向けた構想を今後検討し、福島新エネ社会構想の着実な推進も含め、地元の方々の意見・要望も踏まえつつ、必要な環境整備を進めていくこと。
- ・また、東京電力は、廃炉産業の地元での集積に積極的に貢献していくなど、地域の復興にこれまで以上に主体的に取り組むこと。

<平成 30 年 8 月 9 日 福島復興再生協議会>

- ・【世耕経済産業大臣】知事や松本会長からも、この福島イノベーション・コースト構想を、持続的・自律的な福島の産業発展につなげていくよう、深掘りをしてほしい、というお話でありました。これについては、中長期的で広域的な産業発展の青写真をしっかり描いていきたいと思います。
- ・【内堀知事（終了後ぶら下がり）】平成 30 年度は復興・創生期間 5 年の折り返しのタイミングであり、復興・創生期間後の体制や財源についてしっかり議論をしてほしいということ、復興構想のビジョンを作ってほしいと要望した。国としてもこうしたことを受けて実務的な議論が今後進んで行くと思う。その中で、本日、世耕経産大臣がご発言された福島の産業発展のため新たな青写真を描きたいとの発言があった。ビジョンの基軸は経済と産業であり、持続的な経済発展で被災地域が前に進んでいくために中長期的な構想を、大臣の構想の御発言を受けとめて我々も一緒になって議論、協議し進めていきたい。